こんなとき、どうする？

例題１

あなたは、数年前から認知症で寝たきりの状態になり、介護を受けているものと仮定します。

最近、徐々に食事を飲み込む力が弱ってきたため、少しの流動食でもむせることが増えてきました。このまま口からの食事を続けると、誤嚥（ごえん）性肺炎を起こす危険があるため、主治医から「胃ろう」による栄養摂取に切り替えることを提案されました。家族の間では、あなたに「胃ろう」をするか、しないかで意見が分かれています。

あなたなら、どちらを希望しますか？

- ☐ 胃ろうをして、長生きしたい
- ☐ 胃ろうはせず、リスクがあっても口から食べたい

その理由は？

例題２

あなたは、以前から心臓の具合が悪くなっており、何度か入院もしたことがあるものと仮定します。

ある夜、自宅にいるとき急に呼吸が苦しくなり、意識を失って救急車で病院に運ばれました。対応した救急医は「心臓が弱ってきて肺に水がたまり、呼吸困難になっている。気管に管を入れ人工呼吸器を付ければ生命は助かるが、回復して元の生活に戻れる可能性は低い」と説明し、あなたに人工呼吸器を付けるかどうかを、家族に“今すぐ”判断するよう求めました。家族は判断に迷っています。

あなたなら、どちらを希望しますか？

- ☐ 回復する可能性は低くても、人工呼吸器を付けて生かしてほしい
- ☐ 人工呼吸器は付けず、苦痛を取り除く処置だけして見守ってほしい

その理由は？

ACP（アドバンス・ケア・プランニング）とは…

病気になった人の、将来の変化に備えるために、これから先の医療やケアの進め方を本人や家族、医療・介護関係者などが繰り返し話し合って、共有する仕組みです。
岡山県では、関係団体と連携してACPを実践する人材の育成に取り組んでいます。

このリーフレットに関するお問い合わせ先：岡山県庁　保健福祉部　医療推進課（電話 086-226-7321／FAX 086-224-2313）

令和３年３月発行

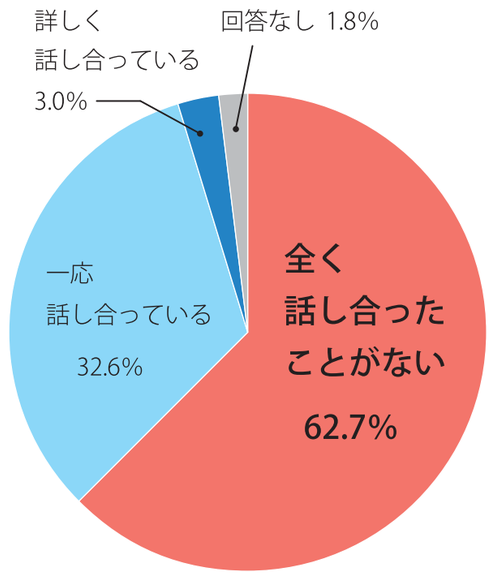
いまの思いを伝えるシート

最期まで自分らしく

～伝えよう、あなたの思い～

あなたは人生の最終段階でどんな医療を受けたいか、自分の思いを伝えていますか？

令和２（2020）年に岡山県が実施した県民へのアンケート調査の結果では「自分の死が近い場合に受けたい医療や受けたくない医療について、家族または医療・介護関係者などと、どのくらい話し合っていますか？」との問いに対し、６割以上の人が「全く話し合ったことがない」と答えました。



記入日：　　年　　月　　日　　お名前：